



今年度のFD・SD研修会を振り返って

学長 矢野 泉

今年度実施した2回のFD・SD研修会を貫くテーマは「大学が将来に向けて今何をなすべきかを考える」である。とはいえ、このテーマは、今、この1年を振り返りながら認識し、ここで初めて掲げている。年度初頭にこうしたテーマを掲げ、本学構成員のみなさんに目的意識をもってFD・SD研修に臨んでいただくまでに至らなかったことは、学長としての力不足を感じるとともに、今後FD・SD研修の体系化に真摯に取り組み、その成果をより高いものにしていく必要があると考える。ただ、結果的にということであっても、このテーマはみなさんとともに繰り返し議論していきたい最も重要な論点であることには変わりない。この場をお借りし、そのことを改めてお伝えしたい。

本年度の第1回FD・SD研修会（修道力フォーラム）は「大学に求められる改革」をテーマとして掲げた。基調講演に東北学院大学の西晴樹学長をお招きし、近年キャンパス移転や学部再編、組織再編等、大きな改革を実施されている東北学院大学の取り組みをお聞きした。特に、私立大学等改革総合支援事業への毎年の応募、教育に横串をさす全学教育機構等、地方私立大学が地域のために何かできるかと同時に生き残るために何をすべきかという視点での具体的な改革は、本学の長期的なビジョンの策定や組織改革にとって大いに参考となった。

第2回FD・SD研修会は「成績評価の在り方再考」をテーマとした。今大学に求められている「教育の質保証」をより具体的なイメージをもって議論するため、「成績評価」に焦点を当てた。「教育の質保証」をはじめ、文部科学省から高等教育が目指すべき姿が示され、それらへの対応が求められる中、「評価疲れ」「やらされている感」という言葉

を、本学に限らず全国の大学関係者の声として耳にする。外部評価ばかりに踊らされることなく、私立大学として本学の建学の精神をどれだけ実質化していけるかという意識で、自ら取り組んでいくためにも、「なぜやらなければならないか」という背景的なものを共有しながら、「どのようにやればよいのか」という具体的な議論を行う研修を企画した。

「なぜやらなければならないか」という部分では、1991年の「大学設置基準の大綱化」により大学の教育内容に関する規制が緩和されたため、各大学自身が学位にふさわしい教育を実施していることを確認する手続きや体制が求められるようになった経緯を共有した。そして「どのようにやればよいのか」について、人文学部山尾涼教授からは主に語学、少人数履修といった特徴を持つ科目の成績評価について、商学部中園宏幸准教授からは履修者の多い科目の成績評価についての実践例を紹介いただいた。最後に、羅星仁教学センター長より、本学における成績評価の現状と、今後大学としてまた個々の教員として、厳正な成績評価を行っている姿勢を学生や社会に明示していくための課題について総括いただいた。

成績評価をはじめ、教育の質保証の中心的担い手は教員であるが、成績や履修という学生にとって重要な案件に関する相談窓口や規程の整備、さらには教育環境の施設設備面での整備や管理において職員の果たす役割も大きい。高等教育機関でともに働く仲間として、本学の教育をより良いものにしていくために今何をなすべきかという意識を持つ機会となっていれば幸いである。

2023年度 第2回 FD・SD 研修会 テーマ「成績評価の在り方 再考」

本学における成績評価の在り方 再考

副学長・教学センター長 羅 星 仁
(コーディネーター)

第2回 FD・SD 研修会では「成績評価の在り方 再考」のテーマが提示され、二つの成績評価の事例報告と、本学における成績評価の現状と課題に関する報告が行われました。

まず、成績評価とは、「学修の状況や学修成果に基づいて授業科目ごとに行う評価のこと」として定義しました。また、厳格で公正な成績評価を行うために、成績評価の方法等に関しあらかじめシラバスで学生に明示することの重要性も確認できました。さらに、学修への取り組みを質的に把握するための指標として GPA を用いて100点満点の素点で行うことが学生の学修意欲の向上につながることも確認できたと思います。

一方で本学の成績評価に関するいくつかの改善の方向性も指摘しました。① GPA の教育効果を高めるためには他の制度（例えば、履修取消制度等）との組合せ、② GPA 制度を教育に生かすために、科目間での成績評価にバラつきがないように難易度の調整、③事例報告で紹介されたような良い事例が教職員の間で共有・拡大されるための組織的な取り組み。

以上のような方向性で成績評価に関連する制度の整備や教職員への情報提供などを持続的に行うことが学生の学修意欲の向上、並びに教育の質向上にも貢献できると期待しています。

評価の透明性によって学びの道を整える

商学部 中 園 宏 幸
(報告者)

私たちは日常、自分がどのように評価されているかについて、しばしば不安を感じることもある。たとえば、講演に参加している際に携帯電話で講師の依頼があると、その背後にある依頼基準が気になる。この依頼が良い評価の結果なのか、それとも何か不足しているからなのか、明確な基準が見えないため不安を感じることもある。

これは学生も同様であろう。不安や疑問は、可能な限り解消することが望ましい。そこで、今回の研修会では、講義における成績の常時公開と評価基準の透明性に焦点を当てた。成績の常時公開は、LMS の基本機能を活用することで容易に実現できる。これにより、学生は自分の

到達段階を随時把握できるようになり、教員側としては、学生による事後的な単位交渉のリスクを避けることが可能になる。評価基準の公開は、学生にとって学習の方向性を定める手がかりを提供し、どのように予習復習を行えばよいかを明確にする。また、採点に疑義を抱いた際の正当な交渉ツールとしても機能し、教員にとっては無理筋な交渉を回避するメリットがある。

より詳細な内容は、人事課またはナカゾノにお問い合わせいただければ資料が提供される（はずである）。ぜひみなさんと引き続き議論していきたい。

成績評価の公平性／透明性を確保するために

人文学部 山 尾 涼
(報告者)

教学に関する改善への促しは、主に2つのレベルへと分けることが可能です。ひとつは学位プログラムレベルにおける改善です。こちらはカリキュラムツリー／マップの布置と、それと効果的に結合するシラバスのシステム、ナンバリング制度の構築といった DP を実現するためのサイクルを形成することが主となります。もうひとつは各教員の個々の授業レベルにおける改善です。このレベルにおいては、大学教育の質保証の根幹となる成績評価が重要な事項として挙げられます。

中教審によりますと、成績評価の公平性、透明性を確

保するためには、成績の達成水準とその測定の方法を明確にすることが必要であると指摘されています。そのためにはループリックの活用が勧められており、その効果には学外に対する信頼性が付随すると述べられています。

今回の発表では、記述式テスト用のループリックと、語学系の授業で使用可能なカルテを先生方にご紹介させていただきました。ご入用の際は自由に改変してご活用ください。先生方の成績評価の負担を少しでも軽減できましたら、欣幸の至りです。

各種研修会参加報告

私大連「FD 推進ワークショップ」参加報告

法学部 河内 紀彦

2023年8月8日、私学連のFD 推進ワークショップに参加させていただく機会を得たので、ここでご報告させていただきます。本ワークショップは午前と午後の2部構成で、午前中は全体セッションの後、小グループに分かれ他の大学の先生方とともに、日頃の授業で困っていることや改善したいと思っていることをざっくばらんに話し合いました。私からは、少人数の授業も担当することもあるがどのような点に注意して行うべきかという点を問題提起したところ、一人一人の学習状況をよく見ること、授業に関する決まりごとを最初にきちんと決めておくことが大切だというアドバイスをいただきました。午後は本ワークショップのメインイベントとも言える模擬授業でした。各々が事前に準備してきた模擬授業を小グループ内で実施し、お互いに良かった点や改善点を出し合うものでした。他の参加者の先生の模擬授業を見て、しっかりした授業計画と作りこまれたパワーポイント資料に感心するとともに、15分程度の短い模擬授業の中であっても、導入→展開→まとめという構成のしっかりしている授業もあり大変勉強になりました。1日のセッションではありましたが、今後の授業で活用できることも多く、実りの多い会であったと感じております。

私大連「FD 推進ワークショップ」参加報告

人間環境学部 白石 智宙

私はオンラインで開催された令和5年度FD 推進ワークショップに8月8日の日程で参加した。内容は授業運営のセルフチェックとピアレビューによる授業改善支援であり、そのためのグループディスカッションと模擬講義を主とするプログラムであった。

プログラムは6名程度から成るグループに分かれて進行したが、私が所属したグループの先生方の分野や経歴が自分とは全く異なっていた。そのため、講義内容もさることながら、それをいかに受講生の興味を継続させながら効果的に伝えるのかという工夫においても多くの学びがあった。工夫とは、画像や動画の効果的な利用、受講生に対するクイズや質問を組み込むという言葉としては月並みなものである。しかし自分が受講生の立場になることでその有効性を実感し、かつ講義設計にいかに組み込むかという点において熟練を要するものであると理解した。

本ワークショップ後、そこで得た学びを自分の講義に少しずつ反映させ、受講生から良い評価を得ることができている。非常に実りあるワークショップであった。

私大連「FD 推進ワークショップ」参加報告

国際コミュニティ学部 小須田 翔

令和五年度FD 推進ワークショップに参加し、貴重な経験となった。午前中には、授業方法についてのディスカッションが行われ、他の参加者と意見交換ができた。私が、専門的で抽象的な内容を教えることに困難を感じていると相談したところ、学生の興味や関心と学習内容を結びつけることで、抽象的な内容であっても学生の関心を捉えることができるという意見を頂いた。

午後には、参加者による模擬授業が行われた。それぞれが特徴的な試みを持ちよっており、どれも参考になった。とくに、音楽を流して歌詞がSDGsにどう結びつくかを考えるという試みが印象深かった。事前に学習のポイントや着目点を学生に説明することによって、たんに音楽を聞くだけでなく、授業の内容と関連付けた思考を促している工夫が見られた。

これらの経験を踏まえ、今後は以下の点に取り組みたい。学生の興味や関心を把握し授業内容に結びつけていくために、授業中にアンケートなどを実施する。授業で扱う内容を学生が関心を持つような切り口で紹介する。これらの方法によって、専門的で抽象的な講義内容と、学生が他の授業や日頃の暮らしで経験していることとを関連づけ、より効果的な学習を促していきたい。

教育力アップセミナー参加報告

人文学部 石田 崇

本セミナーは、大学が置かれた状況や本学の特長の理解を促し、組織的な教育力を高めることをねらいとし、広島修道大学の現状と課題、そして改善策についてデータを基に考え、アクティブ・ラーニングの手法について体験・理解しながら、所属の異なる教職員の相互理解を深め、今後の課題改善に向けた協力関係をつくることを目的としたものである。今年度は、とりわけ「組織的な教育力を高めるために」というテーマのもと、グループワーク等を通して意見交換をしながら検証した。

具体的には、まずグループに分かれ、互いの専門や関心について自己紹介等をした後、IR (Institutional Research) や大学を取り巻く課題について学んだ。その後、本学のIRとして、グループ毎に本学のデータをインプットした後、課題の発見および当該課題に対する具体的な改善策についての議論を行った。最終的には、各グループがポスター形式でまとめた内容を発表し、データ分析によってどのような課題が浮かび上がり、どのような改善策や提案が可能かについて、互いに学びながら理解を深めることができた。

専門の異なる先生方や職員の方たちとの対話を通して、本学の実情を知ることができた。セミナー内容を踏まえ、自分にできることを模索しながら、今後も本学の研究・教育に従事していきたい。

教育力アップセミナー参加報告

総務課 久保文乃

2023年9月1日(金)に行われた第13回教育力アップセミナーに参加した。本セミナーは、今年度採用の教員と2～4年目の職員を対象とした研修であり、大学が置かれた状況や本学の特長の理解を促し、あわせて組織的な教育力を高めることを目的とする。

研修の中で行われたグループワークでは「本学の志願者を増やすために」というテーマのもと、グループごとに課題の検討から改善策の提案までを行った。事前にメンバー各々が分析するデータを選び、担当するカテゴリの分科会にて議論し、最終的に分科会で各々が得た知見をグループに持ち帰り話し合いを行う、という流れで進められた。

最後の発表はグループでの議論がそれぞれの知見を発展させながら行われたことで様々な着眼点での提案があり、非常に興味深かった。

半日という短い時間ではあったが本学の現状という、より実情に即したデータを用いながらIRについて体系的に学ぶことができた。また、普段関わりの少なかった教職員同士の交流を相互に深めあう貴重な機会ともなった。今回学んだことを日々の業務に生かしながら引き続き研鑽を積んでいきたい。

教育力アップセミナー参加報告

財務課 豊岡将司

第13回教育力アップセミナーは、データを積極的に活用する意欲を抱く良い機会となった。セミナーでは、データを整理、分析し、値や傾向から本学の志願者数増加に向けた方策を検討した。始めはデータを扱うことに戸惑いを感じたが、データから有益な情報を引き出すという体験は新鮮であった。私のグループ案を紹介すると、私たちは「修大に行きたい!」と思ってもらえるような大学づくりが重要であると考えた。データは他大学の入試選抜ごとの定員に着目し、入りやすさは魅力に繋がりにくいと認識して、短期的には入試制度の拡充、中長期的には入学後の人材育成のため教育の充実が必要であると結論付けた。その他のグループも多岐にわたる着眼点で興味深いものばかりであった。今回の体験で得たIRの視点を、今後の業務に活かしていきたいと思う。

また、本セミナーは着任早々の教職員が対象であり、ワークショップを通じて、相互理解を深めることができた。同じ大学に従事する者同士であるが、普段は顔合わせてお話しする機会が少ないため、本セミナーのような対面での研修が増えることを期待している。



広島修道大学
Faculty Development
NEWS LETTER
Staff Development

発行日 2024年3月13日
発行者 広島修道大学
〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
TEL. (082) 830-1105
ホームページ <http://www.shudo-u.ac.jp>
E-mail jinji@js.shudo-u.ac.jp